

中山間地域総合整備事業によって設置されたイノシシ対策用の 広域防護柵の効果

梶 誠吾・小宮将大

研究の要旨

2016～2017年に島根県雲南市内の3地区で広域防護柵の管理状況や侵入防止効果を調査した。A地区では柵の未修繕が18カ所あり、うち11カ所はイノシシの侵入の痕跡を認め、管理は不十分と考えられた。また、広域柵が山林に設置されていたが、柵内にイノシシが生息していた可能性があることから、設置ルートが適当であったのか疑われた。B地区では主に田畑の周囲や山際などの管理がしやすい場所に設置しており、自治会による広域柵周辺の草刈りを行っていた。しかし、柵上に9カ所の倒木を認めたことから、点検や修繕は不十分と考えられた。C地区では自治会による維持管理の実施に加えて、広域柵を山際や山中の林道沿いなどの管理がしやすい場所に設置していたことによって、イノシシの侵入防止機能を発揮できていた。本調査によって、広域柵の効果を継続させるには、適切な設置ルートの選定と管理体制の構築が重要であることが分かった。したがって、これらのことに注意して、継続した維持管理を実施していく重要性を周知する必要がある。

表1 聞き取り調査結果

項 目	地 区		
	A	B	C
管理体制	なし	なし	自治会で管理
管理方法	被害発生時に個人が管理	年1回約10人で草刈り	年1回約20人で点検
壊れた場合の修繕方法	トタンなどを補充	なし	点検時に約20人で修繕
修繕の主体者	被害を受けた田畑の管理者 (修繕費も負担)	—	自治会 (個人で持ち寄った資材で修繕)
被害の減少への効果	減少した。広域柵の効果と 捕獲効果の検証が必要	減少した。道路から侵入の 可能性あり	不明

表2 柵上への倒木件数

程 度	地 区		
	A	B	C
破損なし ¹⁾	9	0	0
軽 度 ²⁾	4	8	1
重 度 ³⁾	4	1	0
合 計	17	9	1

¹⁾ フェンスにもたれ掛かっているのみ。

²⁾ フェンスは折れ曲がっているものの、イノシシが侵入できない状態。

³⁾ フェンスが折れ曲がって、イノシシが侵入できる状態。

表3 柵下部の空隙

	地 区		
	A	B	C
修繕済み	3	3	4
修繕未実施	18 (11)	4 (1)	3 (0)
合 計	21	7	7

括弧内はイノシシ侵入の痕跡箇所数（内数）



写真2 「軽度」の倒竹（A地区）

*ワイヤーメッシュ上部の一部が変形



写真4 「重度」の倒木（A地区）

*ワイヤーメッシュが大きく変形